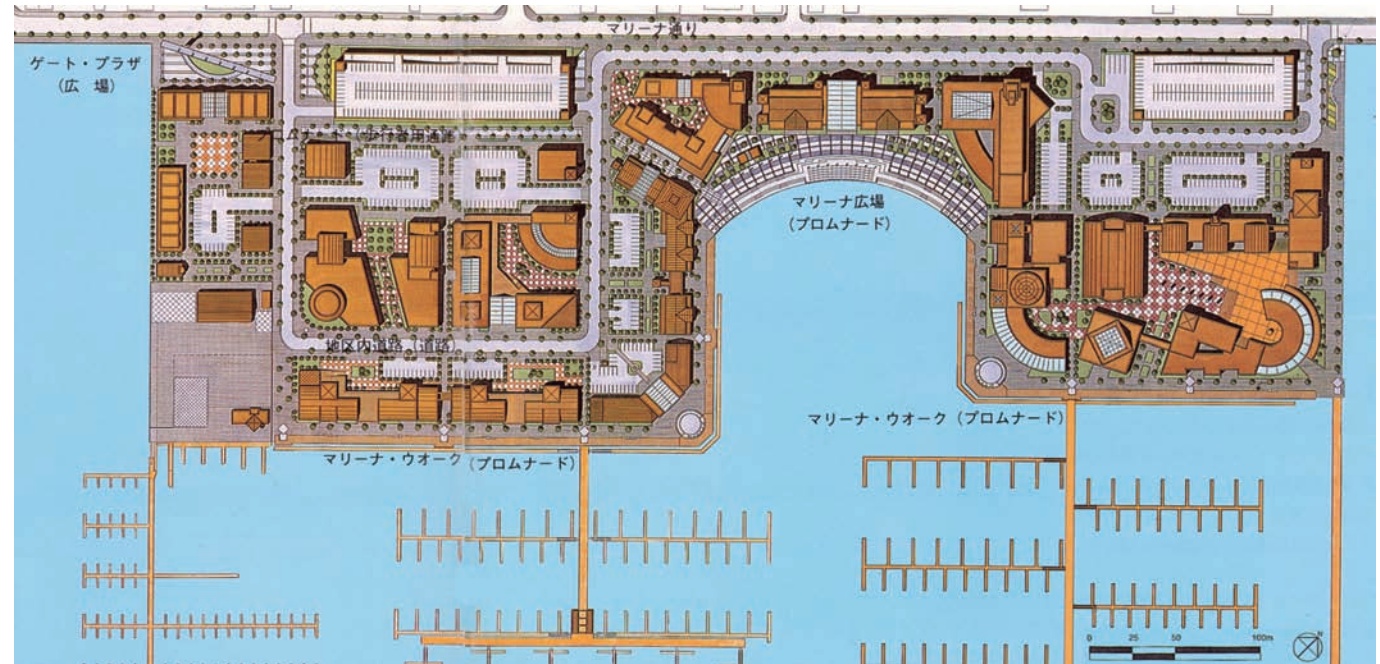


# 横浜ベイサイドマリーナ・マスタープラン等

所在地： 神奈川県横浜市金沢区  
 発注者： 横浜市港湾局／創和エクステリア⑭  
 パシフィックコンサルタンツ⑭  
 期間： 1993～1995  
 計画面積：約13.8ha  
 業務概要： 地区全体のマスタープランの策定  
 地区計画・街づくり協定・街づくり  
 ガイドラインの策定

横浜ベイサイドマリーナは、横浜市の「横浜港湾計画」に基づき、金沢木材港の遊休化した旧貯木水面の一部を埋立て、開発を進めているマリーナを中心とするウォーターフロントの街づくりである。横浜ベイサイドマリーナ地区はマリーナが整備される水域部（約28ha）とマリーナ関連施設を中心とする街づくりが進められる陸域部（約14ha）により構成される。

本プロジェクトにおいては、複数の事業者がまちづくりの方向性を共有しながら、時間をかけて一体性のある開発を実現するために、マリーナ地区全体のマスタープラン及び地区計画、街づくり協定を策定した。さらにまちづくりの一体性を確保するために、従来であれば管理局の縦割りの関係や事業の発注形態からバラバラになってしまう道路、公園・緑地、プロムナード（ボードウォークなど）、広場、サインなどの公共空間の基本設計を開発全体のマスター・デザイナーとして、関係者間のコーディネーションという名目のもとで行った点が特徴である。



<p><b>スカイライン・建物高さ・屋根の形状</b></p> <p>海上から望む景観は、ウォーターフロントならではの景観資源であり、人々に強くアピールします。個々の建物の個性を尊重しつつ、地区全体のスカイラインの調和を図りましょう。また、建物から海への眺望を確保するための高さへの配慮が必要です。さらに建物の高さが歩行者への圧迫感を感じさせない工夫も重要です。</p>	<p><b>敷地内の空地</b></p> <p>敷地内の空地は建物の機能とともに歩行者のアクティビティを支配する大きな要素であり、また多岐にわたる快適な都市環境を創出する上で地区の公共空間を構成する重要な役割を果たします。そこで、歩行者の思いの場となるような空地を設けて、敷地から敷地へ地区全体にわたって歩行者空間をネットワークすることが望まれます。</p>	<p><b>建物壁面のデザイン</b></p> <p>建物壁面のデザインは、表情豊かな面影を形成する最も重要な要素であり、影の入れの演出にも不可欠です。開口部を積極的に確保して、マリーナらしい開放的な街並みの創出と、公共空間や空地との一体化を図りましょう。また、細部のデザインなども工夫し、街並みの連続性やリズム感にも十分配慮することが求められます。</p>	<p><b>緑地・植栽・ランドスケープ</b></p> <p>緑や草花などの自然環境は目の魅力と快適性を生み出す不可欠な要素です。特に高層建や花は四季の変化や豊かな時のうつらうつらを感じさせる貴重な要素でもあります。道路等の公共空間の植栽と調和を図り、緑豊かなウォーターフロント空間の形成に必要な量の植栽を効果的に図りましょう。</p>
---	---	---	--